

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和元年6月19日現在

機関番号：32643

研究種目：基盤研究(B) (一般)

研究期間：2015～2018

課題番号：15H03188

研究課題名(和文)バラッド文化とメディア：18・19世紀のバラッド・ソング・物語詩の出版を中心に

研究課題名(英文)Ballad Culture and Media: Focusing on the Publication of Ballads, Songs and Narrative Poems of the 18th and 19th Century

## 研究代表者

三木 菜緒美(服部菜緒美)(Miki, Naomi)

帝京大学・福岡医療技術学部・准教授

研究者番号：20461535

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 5,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、18・19世紀の英国文化圏(イギリス、スコットランド、アイルランド)において、その主要な情報伝達媒体であった出版というメディアにより、バラッド文化が社会に与えた影響およびその需要の諸相を、地域別に、そして地域別の現象を比較しながら検討を行なった。その結果、イングランドにおける出版に関する法の整備に伴い、アイルランドではリプリント産業が栄え、英語教育の広がりとともにバラッド文化も広がったこと、イングランドやスコットランドでは、ブロードサイド・バラッドのメディアとしての性質を詩人が積極的に取り入れて社会問題や異文化をテーマに社会に発信していった事例が見られることが明らかになった。

## 研究成果の学術的意義や社会的意義

中世より口承で伝わる伝承バラッドや、バラッド形式を用いて職業詩人が作ったバラッド詩はこれまでも研究されてきたが、民衆文化としてのブロードサイド・バラッドに焦点を当てた研究はこれまでにあまりなされていない。この意味で、本研究は、英国文化圏の出版事情とその影響を視野に入れながら、これまであまり取り上げられることのなかったブロードサイド・バラッドを取り巻く様々な現象を取り上げて、その歴史を整理し、文化現象を分析・検証して社会に発信できたことは、学術的にも社会的にも大きな意義のあることであると考えている。

研究成果の概要(英文)：This project aimed to explore what influence ballad culture had on the societies of eighteenth and nineteenth-century England, Scotland and Ireland through print media, the main medium of communication in those days. The study made it clear that ballad culture thrived throughout Ireland in the eighteenth century in part due to the enactment of the publication law in England that led to a corresponding spread of the reprint industry, as well as being supported by a general fervor for English language education at that time. The study also illustrated that a number of poets exploited the communicative characteristics of broadside ballads to explore themes related to social problems and culture of the times.

研究分野：英語圏文化

キーワード：ブロードサイド・バラッド 英語圏文化 バラッド文化 出版事情 バラッド詩

## 1. 研究開始当初の背景

(1) バラッド文化(バラッド・ソング・物語詩など)は、いわゆる知識階級による創作批評活動の題材となる以前に、基本的には一般大衆によって創作され伝達されたというルーツを持つ文化現象である。口承の時代には、聴衆(情報の受け取り手)の存在は創作の前提であり、聴衆への伝達を意識した文化の様式は、この文化のエッセンスとして後世にも引き継がれ、近代社会においては、喪失した聴衆に憧憬するという特色がバラッド作品に見られることもある。このように聴衆への情報発信としてのメディア性を前提として内包しているということは、バラッド文化の一大特色であり、バラッドは文化・文学とメディアを考察する際の格好の取り掛かり口となりうる。

(2) 本研究チームのメンバーは、個人及び共同の研究によって、それぞれが主として研究対象とする地域のバラッド文化について、バラッドが内包するメディア性に関して以下のような共通の気付きを蓄積してきた。

- ブロードサイド・バラッドは近代初期のメディアの原型である
- 職業詩人による物語詩には、そこに込められた奴隷制廃止や知的財産権の主張などのダイレクトな社会的メッセージがある
- アウトローを主人公としたバラッドは、大衆文化として民衆の声を代弁し、その支持や反抗を反映している
- アイルランドにおけるバラッド・ソング集の出版は社会を反映し、政治的役割を持つ

## 2. 研究の目的

上記の気付きにもとづいて、本研究では18世紀と19世紀の英国文化圏(イギリス、スコットランド、アイルランド)を対象に、その時代の主要な情報伝達媒体であった出版というメディアによって、バラッド文化が社会に与えた影響およびその需要の諸相を、チームを組んで地域別に、そして地域別の現象の比較検討によって総合的に検証することを目的とした。

## 3. 研究の方法

上記の目的を達成するため、本研究はメンバーそれぞれが研究対象とする地域を踏まえ、以下のように役割分担を行った。

- 三木：18・19世紀のアイルランドのバラッドとその出版事情
- 中島：18・19世紀のスコットランドのバラッドとその出版事情
- 宮原：19世紀イングランドのバラッドとその出版事情
- 伊藤、鎌田：18世紀イングランドのバラッドとその出版事情

1年目、3年目は主に個別に設定したテーマに基づいた個人研究を進め、各地域の出版事情を歴史的に整理し、どのようなバラッドがどのような社会的・政治的背景で民衆の間に広がり、どのような媒体で社会に発信され、どのように受容されたかをまとめた。2年目、4年目は共同研究として地域横断的な視点を持ち、前年度に得られた知見をもとに各地域の影響関係を調査・分析した。

## 4. 研究成果

### (1) 研究の主な成果

共同研究の成果として、地域横断的な視点に立った研究は今後さらに進めていく必要があるが、そのような視点を取り入れた共同研究に基づいた各メンバーの個別研究成果は以下の通りである。

三木：1年目は所属大学の移動および健康上の理由により、18・19世紀アイルランドのストリート・バラッドおよび出版印刷の歴史に関する資料の収集を主に行った。2年目からは、18・19世紀アイルランドのバラッド文化として印刷・出版、教育の歴史についての資料収集、歴史整理を行った。印刷出版文化の発展に伴い、垣根学校(ヘッジ・スクール)と呼ばれる寺子屋教育の中でチャップ・ブック活用が盛んになったこと、その大衆文学の中に多くのバラッドの素材が認められることが明らかとなった。また18・19世紀のアイルランドの印刷出版文化に与えたスコットランドの影響について事例を探り、特にスコットランドの啓蒙主義の出版物について、アイルランドで盛んであったリプリント産業が印刷物を入手・出版していった経緯や節

約術、果たした役割について明らかにした。アイルランドの出版事情とバラッド文化を調査していく中で、新たな知見として Jack B. Yeats がブロードサイドを 11 年にわたり企画・制作・出版していたことがわかり、その制作活動が、アイルランドのアーツ・アンド・クラフツ運動との関係で捉えることが可能であることを検証した。

中島：18・19 世紀スコットランドにおけるバラッド作品について、そのナショナル・アイデンティティ表象の多義性について研究を進めた。その後、18 世紀イングランドおよびスコットランドにおける印刷出版文化と読者層の変化について資料収集と概要のまとめを行なった。そして 19 世紀後半のスコットランドの出版事情に関連して、商業的成功を目指してイングランドへ移住したスコットランド作家たちの背景にある経済事情・文学作品の取り扱い・使用言語の問題等を詳細に分析した。最終年度は、19 世紀以降のブロードサイド・バラッドとは「バラッド」という言葉を軸として拡散拡大してゆく文化現象であることをチームとしてまとめるという課題が設定されたため、「ブロードサイド・バラッドとは何か」を発生、展開、特色等から明確にする作業を行った。また、William Plomer と John Betjeman のバラッド詩が、ブロードサイド、新聞、雑誌、パフォーマンス等のメディアを介して確立されてきた「民衆の詩」の伝統の中に位置付けられることを明らかにした。

宮原：19 世紀イングランド・スコットランドにおけるアウトロー・バラッド詩の系譜を辿ること、そして日本においてバラッド文化がどのように再現されたかを探ること、の 2 点をテーマに研究した。1 つ目については、Sir Walter Scott の作品を中心にロビン・フッド像、アウトロー像について分析し、スコットのアウトロー・バラッド詩の系譜上の意義について検証を行った。さらにロマン派第二世代の詩人たちがロビン・フッドをどのように描いたのか、4 編のロビン・フッド・バラッド詩を書いた Leigh Hunt を中心に、彼らが描くロビン・フッド像の一側面を探り検証した。2 つ目については、Lafcadio Hearn の作品を取り上げ、そこに見いだされるバラッド文化についての分析を行った。また、ハーンが日本で著した *Kokoro* をはじめとする作品や、Georges Bigot の *Yokohama Ballads* に見られるブロードサイド・バラッド的特徴を検証し、彼らの作品が明治時代の日本という異文化の中で、ヨーロッパのバラッド文化を再現した貴重な例であるという結論に至った。

鎌田：当初は研究協力者として参加していたが、2016 年度より研究分担者として参加。18 世紀イングランドを担当し、特に前半は、John Keats 作 'Ode to Psyche' のスタイルと内容の関連について考察し、またキーツのバラッド詩がバラッドの伝統をラファエル前派の画家たちに引き継いだこと、James Hogg のバラッド作品が異教徒キリスト教世界の両方を内包する世界を提示していることについて考察・検証した。後半は、奴隷制廃止をテーマにしたバラッド詩の中から、対象とする読者の異なる William Cowper, Hanna More, Amelia Opie, Robert Burns の作品を選び、社会問題を扱ったバラッド詩がどのような特徴を持ち、どのように社会に働きかけていったのかを明らかにした。

伊藤：18 世紀イングランドのバラッドの影響の一例として、民衆の情報ツールとしてのバラッドが P. B. シェリーの作品内で恐怖を呼び起こす装置として機能していること、バラッドを通じたシェリーとアイルランド社会との関わりを中心に調査する予定であったが、産休及び育児休暇のため 2015 年度のみ参加となった。

## (2) 国内外における位置付けとインパクト

研究期間内に国際バラッド学会に 3 度参加し、英語圏に限らず世界各地のバラッドやソングの捉え方、歴史的背景や社会的・文化的役割、研究の動向についての知見を得ることができた。日本において「バラッド」が指し示すものは、多くの場合、英語によるものであり、そのルーツとなる伝承バラッドといえ、スコットランドやイングランド発祥のものとの捉え方が主流であったが、特定の時代の人や土地に固有の歴史や伝統を伝えるバラッド文化は、様々な民衆の間に存在し、普通の人々の生活を取り込みつつ、人や物の移動を通じて広がりを見せ、時には異文化と融合し、世界各地に見られる民衆文化の一部であること、そして歌としてだけでなく、チャップ・ブックやブロードシートなどの印刷出版文化、絵画や音楽などの芸術文化、あるいは教育や娯楽文化など様々な形態の文化とも交流があることを、日本バラッド協会における活動や英文学会におけるシンポジウムなどで社会に発信することができた。

## (3) 新たな知見と今後の展望

新たな知見として、18・19 世紀の印刷出版の発達に伴い、伝承バラッドだけではなく、ブロードサイド・バラッドが様々な文化形態に入り込み、社会的役割を担っていたこと、またアイルランドでは、Jack B. Yeats のブロードサイド制作が、アーツ・アンド・クラフツ運動や慈善活動と関わりを持っていたことがわかり、今後はそれぞれの地域のブロードサイド・バラッドが具体的にどのような異文化形態とどのような関わりを持ったのかを調査していきたいと考えている。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計8件)

宮原 牧子、日本初バラッド文化：Georges Bigot の Yokohama Ballads、筑紫女学園大学  
研究紀要、査読無、第14号、2019、pp.53-65  
<http://id.nii.ac.jp/1219/00000980/>

中島 久代、ブロードサイド・バラッドの誕生と展開、九州女子大学紀要、査読有、55巻2  
号、2019、印刷中。

宮原 牧子、19世紀アウトロー・バラッド詩の系譜(2)：Leigh Hunt のロビン・フッド・  
バラッド詩、筑紫女学園大学研究紀要、査読無、第13号、2018、pp.47-59、  
<http://id.nii.ac.jp/1219/00000945/>

三木 菜緒美、18世紀アイルランドの印刷と教育、そして大衆文学の中のバラッド文化、  
帝京大学福岡医療技術学部紀要、査読有、第12号、2017、pp.17-39、  
<https://tk-opac2.main.teikyo-u.ac.jp/webopac/TC50000019>

中島 久代、John Davidson and Unstable Scottish Identity、九州女子大学紀要、査読有、  
54巻1号、2017、pp.69-90、  
<http://id.nii.ac.jp/1267/00000282/>

宮原 牧子、19世紀アウトロー・バラッド詩の系譜(1)：Sir Walter Scott とアウトロ  
ーの世界、筑紫女学園大学研究紀要、査読無、第12号、2017、pp.39-51、  
<http://id.nii.ac.jp/1219/00000565/>

鎌田 明子、A Study of 'Ode to Psyche'—From Pindaric Ode to Ronde、戸板女子短期  
大学研究年報、査読無、第59号、2017、pp.9-17、  
<http://id.nii.ac.jp/1519/00000042/>

宮原 牧子、ラフカディオ・ハーンとロセッティのバラッド詩—影なる世界の影なる亡霊た  
ち—、筑紫女学園大学・筑紫女学園短期大学大学部紀要、査読無、第11号、2016、pp.43-55、  
<http://id.nii.ac.jp/1219/00000509/>

〔学会発表〕(計9件)

中島 久代、ブロードサイド・バラッドとは(シンポジウム「バラッド文化の継承とその可  
能性—19世紀以降におけるブロードサイド・バラッドとその文化的意義の広がり—」[中島、  
鎌田、三木、宮原])、日本英文学会九州支部第71回大会、2018。

鎌田 明子、Broadside Ballad としての The Dream of Eugene Aram, the Murderer (シン  
ポジウム「バラッド文化の継承とその可能性—19世紀以降におけるブロードサイド・バラッド  
とその文化的意義の広がり—」[中島、鎌田、三木、宮原])、日本英文学会九州支部第71回大  
会、2018。

三木 菜緒美、Jack B. Yeats のブロードサイド(シンポジウム「バラッド文化の継承とそ  
の可能性—19世紀以降におけるブロードサイド・バラッドとその文化的意義の広がり—」[中  
島、鎌田、三木、宮原])、日本英文学会九州支部第71回大会、2018。

宮原 牧子、日本初のバラッド風文化(シンポジウム「バラッド文化の継承とその可能性—  
19世紀以降におけるブロードサイド・バラッドとその文化的意義の広がり—」[中島、鎌田、  
三木、宮原])、日本英文学会九州支部第71回大会、2018。

中島 久代、現代版ブロードサイドとしての Plomer と Betjeman のバラッド詩(シンポジ  
ウム「バラッド文化の継承とその可能性—19世紀以降におけるブロードサイド・バラッドとそ  
の文化的意義の広がり—」[中島、鎌田、三木、宮原])、日本英文学会九州支部第71回大会、  
2018。

三木 菜緒美、18世紀アイルランドの出版事情—スコットランドの影響に注目して—、日  
本カレドニア学会2017年度第1回研究会、2017。

鎌田 明子、James Hogg, 'Gude Grey Katt' の一考察、日本カレドニア学会2017年度第

1 回研究会、2017.

三木 菜緒美, Louis MacNeice: The Musical Journalist, The 32<sup>nd</sup> International Conference, IASIL Japan, 2015.

伊藤 真紀, P. B. シェリーのゴシック作品に見る社会批判とバラッド—St. Irvyne; or the Rosicrucian: a Romance を中心に一、日本シェリー研究センター第 24 会大会、2015.

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

取得状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 0 件

## 6 . 研究組織

### (1)研究分担者

中島 久代 (NAKASHIMA, Hisayo)

所属研究機関名：九州女子大学

部局名：共通教育機構

職名：教授

研究者番号：90227778

宮原 牧子 (MIYAHARA, Makiko)

所属研究機関名：筑紫女学園大学

部局名：文学部

職名：准教授

研究者番号：00636524

鎌田 明子 (KAMATA, Akiko)

(2016 年度～2018 年度)

所属研究機関名：東京農業大学

部局名：地域環境科学部

職名：講師

研究者番号：00533580

伊藤 真紀 (ITO, Maki)

(2015 年度～2016 年度)

所属研究機関名：福岡工業大学

部局名：その他部局等

職名：その他

研究者番号：10750739

### (2)研究協力者

ウェルズ 恵子 (WELLS, Keiko)

立命館大学・文学研究科・教授